

令和5年度 「家庭教育支援チーム」の活動の推進に係る 文部科学大臣表彰



表彰活動一覧



令和6年2月
文部科学省

はじめに

家庭教育は、すべての教育の出発点であり、子供の基本的な生活習慣や豊かな情操、自立心の育成、心身の調和のとれた発達を図る上で、重要な役割を担うものです。

一方で、ひとり親家庭の増加や地域のつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境の変化とともに、児童虐待や不登校など、子供の育ちをめぐる課題が懸念されています。こうした中、保護者が安心して家庭教育を行うために、家庭教育支援の重要性は一層高まっています。

このため、文部科学省では、地域における子育て経験者や元教員など多様な人材による「家庭教育支援チーム」の組織化の推進など、地域の実情に応じた家庭教育支援の取組を支援しています。

本冊子は、令和5年度「家庭教育支援チーム」の活動の推進に係る文部科学大臣表彰において表彰された、全国の「家庭教育支援チーム」20団体の活動を取りまとめたものです。

各チームにおける地域の課題解決に向けた取組や、効果的な支援のための連携、工夫などが盛り込まれた具体的な実践事例集となっています。

今後、広く全国の様々な地域において、家庭教育支援の取組を更に充実していくための御参考として活用いただければ幸いです。

文部科学省総合教育政策局
地域学習推進課家庭教育支援室

目 次

No	都道府県名	市町村名(活動拠点)	「家庭教育支援チーム」の名称	頁
1	青森県	ひがしつがるぐんいまべつまち 東津軽郡今別町	今別町家庭教育支援チームT A Z U N A	2
2	宮城県	おおさきし 大崎市	鹿島台家庭教育支援チーム「まあま」	4
3	秋田県	ゆざわし 湯沢市	湯沢市家庭教育支援チーム「和輪人」	6
4	福島県	こおりやまし 郡山市	郡山市家庭教育支援チーム のびのび子育てサポーター	8
5	茨城県	かしまし 鹿嶋市	鹿嶋市家庭教育支援チーム	10
6	群馬県	し みどり市	家庭教育支援チーム とまり木	12
7	千葉県	ちやうせいぐんむつざわまち 長生郡睦沢町	睦沢町家庭教育支援チーム	14
8	東京都	はちおうじし 八王子市	星とおひさまFikaキャラバン	16
9	新潟県	むらかみし 村上市	with～NPO法人村上ohanaネット、 NPO法人おたすけさんぽく、NPO法人ここスタ、ふくちゃ部、 放課後等デイサービスおひさま合同チーム～	18
10	岐阜県	かにぐんみたけちやう 可児郡御嵩町	御嵩町家庭教育支援チーム	20
11	愛知県	いなざわし 稲沢市	NPO法人ふぁみりい・らぼ	22
12	京都府	ふくちやまし 福知山市	NPO法人 おひさまと風の子サロン	24
13	大阪府	だいとうし 大東市	大東市家庭教育支援チーム「つぼみ」	26
14	奈良県	しきぐんかわにしちやう 磯城郡川西町	かわにしWAKU・WAKU+1 (通称：わくプラ)	28
15	和歌山県	ひがしむろぐんなちかつうらちやう 東牟婁郡那智勝浦町	家庭教育応援チーム『ほっとほーむ』	30
16	岡山県	まにわし 真庭市	家庭教育支援チーム「ふらっと」	32
17	山口県	ひかりし 光市	あさなえ学園家庭教育支援チーム「あさらぶりん」	34
18	愛媛県	いよし 伊予市	伊予市家庭教育・子育てサポートグループ	36
19	鹿児島県	おおしまぐんとくのしまちやう 大島郡徳之島町	徳之島町家庭教育支援チーム「つむぎたい」	38
20	(政令指定都市)	ちばし 千葉市	こもんず	40

活動内容

【サロンほっとケーキの開催】

○年10回程度、今別こども園、町福祉部局、公民館、家庭教育支援チームの4つが連携し、乳幼児の子どもがいる保護者を対象にサロンを開催しています。

○リフレッシュヨガや子育てワンポイント講座、親子制作など、保護者に子育てのヒントになるような講話やリラックスできるような講座を実施しています。



「リフレッシュヨガ」の様子



「ビジョントレーニング」の様子

【公民館子ども教室】

○年5回 土曜日等の休日を活用し、公民館こども教室を開催。外部より講師を招き、体験教室等を通じて子どもたちの健やかな成長に寄与しています。



ボッチャ体験の様子

活動成果

- ①子育て世代の孤立化を防ぎネットワークを形成。
- ②地域人材の発掘
- ③サロンを通じて保育教諭・家庭教育支援アドバイザーが支援できる体制の構築。

今後の展望

私たちの活動は学校、地域、家庭の輪をつなぎ、広げていくことです。また、安心して子育てできるコミュニティの場をなくさず、次世代を担う子どもたちの輝かしい未来のために、事業を継続していきます。

いのち 生命を考える会

地域の中学生を対象に命の大切さや将来の人間形成に必要な父性・母性を育ませることを目的として長年にわたり開催しています。

様々な体験活動を通して、子どもを育てることの大変さや自分がこれまで大切に育てられてきたことを知ることができます。



赤ちゃんだっこ体験



妊婦疑似体験



おむつ替え体験



「いのち」と「赤ちゃんの特性・母乳とたばこ・飲酒の害」についてのお話

参加者からは・・・

- ・妊婦疑似体験をしてみて「こんなに重いんだ」と妊婦さんの大変さがわかりました。
- ・自分の親は、大変な思いをしながらも大切に育ててくれたことに嬉しく思いました。
- ・自分の命、友だちの命、周りの命も大切だとあらためて学ぶことができました。

保護者向け研修会の開催

子育ての不安、悩みをグループワーク形式で話しあい、子育てのヒントを学ぶ機会を提供しています。

保護者が参加しやすいように、PTA研修会に組み込むなど開催の仕方を工夫しています。

《参加者の感想》

- ・他のお母さんたちも同じ悩みで「みんな一緒なんだ」と思い少し気が楽になった気がします。
- ・育児について、共有・共感できる場があってよかったです。



「親と子のコミュニケーション」



グループワーク

学校生活についての講座



小学校の入学説明会で、保護者を対象に学校生活で気を付けることや生活習慣についてのお話をしています。

育児相談

子育て支援センター主催のイベントに協力しています。その中で参加した方の育児相談を行っています。



成果と今後の展望

長年にわたって、家庭教育講座、育児相談をはじめとする家庭教育支援や関係機関や団体との連携・協力を継続してきたことによる信頼関係が生まれ、年々イベントや講座の依頼が増加しています。現在は、地域の幼稚園や保育園から小・中学校まで、成長過程に沿った支援を提供しています。

今後も、継続して関係機関との連携を図りながら、子育て世代への家庭教育支援を行っていきます。

湯沢市家庭教育支援チーム

「和輪人（わわっと）」



湯沢市家庭教育支援チーム「和輪人（わわっと）」は、「子育て中の家庭の応援をしたい」「何かお手伝いができたら」そんな思いをもったメンバーが集まったチームです。

親子参加型体験活動の実施、保護者同士の交流の場の提供、相談対応、家庭教育に関する情報提供等を通して、家庭教育の充実を目的に支援をしています。

活動の体制

- 活動拠点を置く市町村：湯沢市（人口40,597人（令和5年11月末現在））
- 活動開始年月：2017年7月
- 活動拠点：秋田県湯沢市
- 活動範囲：湯沢市内全域
- チームのメンバー13人
（PTA関係者5人、地域学校協働活動推進員2人、元教員2人、民生児童委員1人、放課後子ども教室関係者1人、元PTA関係者1人、元保育士1人）
- 連携機関等：湯沢市教育委員会、湯沢市家庭教育支援チーム「湯沢おやじの会」、湯沢市立小・中学校、湯沢市立図書館、湯沢市雄勝郡生涯学習奨励員連絡協議会、子育て支援総合センター等



活動の対象

- 妊婦とその家族 乳幼児期 小学生
- 中学生 高校生以上の子どもをもつ保護者・家庭
- その他

活動場所

- 幼稚園 保育所 小学校 中学校 義務教育学校
- 高等学校 中等教育学校 特別支援学校 社会教育施設
- 福祉施設 保健センター等 企業 家庭
- オンライン その他（市役所庁舎等）

主な活動

「お茶っこサロン」の開催

お茶っこサロンは、お茶やコーヒーを飲みながら、子育てについて自由におしゃべりできるサロンです。

和輪人メンバーには、子育て経験が豊富な方や現役子育てママがいて、子育ての小さな疑問や悩みごと等、気軽におしゃべりすることができます。

サロンは市内小・中学校のPTAのほか、湯沢市役所本庁舎1階市民ロビーでも月1回開催しています。また、フラワーアレンジメント教室や缶バッジ作製体験等のミニイベントも同時開催することで、親子が気軽に参加できる環境づくりをしています。



子育ての悩みごと相談



参加者同士の交流



ミニイベントの様子

その他の活動内容

親子参加型の体験活動の実施

☆地域と連携した体験活動

親子間の触れ合い、保護者同士の交流を目的に、参加者が一体となって楽しめる体験活動を実施しています。

実施する際には、地域で活躍する様々な人材や団体との連携を意識しながら企画運営を行っています。読み聞かせボランティアグループ、生涯学習奨励員、英会話講師、歴史研究家等、連携先は多岐にわたっています。

☆「湯沢おやじの会」とのコラボ

湯沢市のもう一つの家庭教育支援チーム「湯沢おやじの会」と連携した取組を行っています。コラボにより、湯沢市に家庭教育支援の輪を広げています。



コラボ活動の様子

「5歳児教育相談会」での協力

ミニ講話を通じた情報提供や相談対応、親子の見守りをしています。また、図書館司書やチーム員によるおすすめ図書の展示・紹介、関連資料の配布も行っています。

「わわっと通信」の発行

コロナ禍により活動が制限されるなかで保護者とのつながりを継続するため、通信発行を始めました。活動報告、子育てや家庭教育に関する情報、チーム員によるコラム等を掲載した広報紙を市内小学校や子育て支援総合センター等を通して、保護者に配布しています。

成果と今後の展望

色々制限されたコロナ禍であっても、チーム員のアイデアで子育て家庭とのつながりを深められる活動を続けてきました。多方面から依頼をいただき、活動の幅も広がり、親子の見守りとともに子育ての疑問や不安に対応できる体制になってきました。

今後は、気軽に立ち寄り、話ができる「お茶っこサロン」の更なる充実と、ニーズに合わせた情報発信ができるようメンバーもスキルアップし、子育て家庭に必要とされるチームになれるよう活動していきたいと思っております。

推薦都道府県：福島県



ウェブサイト

郡山市「家庭教育ふれあい事業」



福島県郡山市 家庭教育支援チーム

のびのび子育てサポーター



目的



趣旨



- ★ 子育てのなかまづくり
- ★ 親子の居場所づくり
- ★ 家庭教育力の向上 など

- ♥ 活動開始年月 1993年4月
- ♥ 活動拠点 福島県郡山市
- ♥ 活動範囲 市内全域(人口約33万人)
- ♥ チームのメンバー 12人
 - 現幼稚園教諭 ○ 元幼稚園教諭 ○ 元保育士
 - 全員が子育て経験者 ◎ のびのび子育て広場OG(6名)
- ♥ 連携機関等 郡山市内各公民館



活動の対象

就学前の子供と
その保護者



子育て
サポーター
手作りの
ぬいぐるみ
♥♥♥



主な活動場所

郡山市立
中央公民館



いろんなふうせん
るるる～♪

活動内容



参加者の声
自分たちで企画する
ことができ、参加してい
る実感があってとても
良かったです！

のびのび子育て広場



Instagramで
活動の様子を
随時更新中！

0歳児・1歳児・就学前の子どもとその保護者が対象の「0歳児広場」を1広場、「1歳児広場」を2広場、「就学前広場」1広場の合計4つの広場を年間延べ48回開催しています。

広場では、講師を招いてのリトミックや栄養指導などのほか、子育てサポーターと一緒にわらべうたを歌ったり、参加者が企画した新聞紙遊び、ミニ運動会などを行ったりしています。

子育てサポーターは、参加者が主体となって活動でき、家庭教育力の向上、子育てネットワークの形成につながるように企画・運営を行っています。



はやママサロン

参加者の声
子供に目が届きやす
い安全な場所です。
サポーターさんの見守
りもあり、ママ同士が
交流しやすいです！

親子で自由に利用できる中央公民館託児室で、毎週水曜日の午前中にサロンを開設しており、出入り自由で気軽に訪れることができます。子育てサポーターが2名常駐し、見守りやちょっとした子育て相談、絵本の読み聞かせなどを行っています。



～ 成果と今後の展望 ～



同じ世代の子を持つ親が集まることのできる居心地が良い居場所を作ることで、参加者同士の交流が生まれ、親子の友達づくりや子育ての情報交換ができる取り組みとなっています。

より多くの参加者が子育てサポーターの活動に興味を持ち、子育てが一段落したら、今度は様々な場面で、支援者の立場となって活動をしていただけることを期待しています。

♪♪♪♪♪ さーよなら あんころもーち またきなこ ♪♪♪♪♪

鹿嶋市 ベルト型全戸訪問

支援が届きにくい保護者に寄り添う アウトリーチ型家庭教育支援活動

年間スケジュール

- ・4月下旬
鹿嶋市家庭教育力向上推進協議会の開催
(今年度の方針等を協議)
- ・5月上旬
学校を通して、対象保護者への情報発信
- ・5月中旬～12月
支援チーム会議の開催
家庭訪問の実施
- ・10月
鹿嶋市家庭教育力向上推進協議会の開催
(進捗状況の報告・評価・修正等)
- ・1月下旬
鹿嶋市家庭教育力向上推進協議会の開催
(年間活動報告・次年度への展望等)

これまでの実績

- ・平成29年度
小学1～3年生対象ターゲット型訪問
- ・平成30年度
590件(就学前の全戸訪問)
- ・令和元年度
590件(小学1年生の全戸訪問)
- ・令和2年度
全事業中止(新型コロナウイルス感染症)
- ・令和3年度
コロナ禍の状況を鑑み、希望制で実施
- ・令和4年度
532件(小学1年生の全戸訪問)
- ・令和5年度
520件(小学1年生の全戸訪問)

定着してきたこと

- ① 支援員の資質向上
困り感や孤独感を抱えている保護者に寄り添った対応法が整理されつつある。
- ② 情報共有・連携体制の構築
訪問毎に事務局へ報告し、心配と思いきケースは即時対応できるよう関係各課・関係機関との連携が図られつつある。
- ③ 事業の認知促進
居所不明の確認等、支援員の依頼事項は、学校との円滑な情報交換により、協力体制が確立されつつある。

保護者からいただいた声

- ・今のところ大丈夫ですが、話を聞いてもらえる窓口があることが嬉しいです。気持ちが一掃されました。
- ・おたより(チラシ)見ました、待っていました。
- ・2回もきてもらって(前回不在)申し訳なかったです。校長先生をはじめ担任の先生はもちろん、多くの先生方が良くしてくれているので、今のところ心配ありません。
- ・学校に相談したが、「大丈夫ですよ」と言われてしまいどうして良いかわからないときに訪問してくれてありがたかったです。

今後の展望

- ① 人財の確保・育成
- ② 事業の周知・広報
- ③ 再訪問システム構築
- ④ 訪問時の面会率向上



鹿嶋市イメージキャラクター
「ナスカちゃん」

家庭教育支援チーム

とまり木



理念

みんながあたたかくつながれる場所
子どもの成長と子育てを支援する

行動基準

地域ぐるみでひとりひとりの子どもを育む取り組み



チーム・活動の紹介

子どもの居場所づくりに取り組んでいます。子どもが気軽に立ち寄れる学校でも家庭でもない居場所を地域の仕組みとして根付かせたいと思い活動しています。

- とまり木食事会**…月に一度の食事会。オープンは午後4時。子ども達は宿題をしたり、クラフト体験をしたり、子ども達同士、スタッフと戯れたり自由な時間を過ごしています。食事は6時から。主に地域の皆様、企業様からご寄付いただいた食材を使った夕御飯を、親子で一緒に楽しく食べます。保護者同士の交流の場や、地域とのつながりをつくる場にもなっています。高校生以下無料、大人は300円（協賛金）。



- とまり木パントリー**…とまり木食事会と同日開催。フードロス削減と子育て家庭をつなぐ活動。食事会で使いきれなかった食材、賞味期限が迫った食材を使ってくださる子育て家庭に配布しています。どの子にもおなかいっぱい笑顔をお楽しみください。



- ナプキン配布**…どの子も安心して清潔なナプキンを使って過ごせるよう市内小学5年生以上の児童・生徒に1か月に1度使えるナプキン無料引換券を学校を通して配布。ナプキンの受け渡しは市保健センター、図書館、公民館等に依頼しています。

チーム・活動の体制

- ◇活動開始年月：2016年10月
- ◇活動拠点：群馬県みどり市
- ◇活動範囲：市内全域（人口約49,000人）
- ◇チームのメンバー：29人
- ◇連携機関等：地域住民、協力企業、みどり市、市内学校、公共施設



活動の対象

- 小学生 ■ 中学生
- 子育て家庭

活動場所

- 無償提供活動拠点
- 社会教育施設 ■ 保健センター等

アピールポイント！！（特色のある取組）

子ども達が、さまざまな体験ができるよう意識しています。また、地域の方々、みどり市地域おこし協力隊の方々にご協力いただき、子ども達の地域愛、郷土愛を育てていけるよう工夫しています。とまり木食事会内では、手話教室、大間々祇園囃子体験、竹灯籠づくりなどにも取り組んでいます。食事会に参加した保護者と地域のつながりづくりにもなるなど、地域ぐるみで子ども達の成長と家庭教育を支援しています。



地元の竹で竹灯籠づくり



大間々祇園囃子を体験



手話教室

その他の活動内容

- **パン教室**…ビニール袋ひとつでパンづくり。パンの発酵や焼ける匂いを体験しました。好きな形に焼けた出来たてのパン、具沢山スープ、デザートを皆でいただきました。持ち帰ったお土産用のパンは家族で食べてもらいました。（赤い羽根募金事業）



- **ナップサック制作**…小学校へ入学する子どもの保護者を対象に通学に使うナップサック（体育着入れ）を作るお手伝いをしました。高校生ボランティアに託児のお手伝いをお願いし、お父さんお母さんは集中して制作に取り組みました。（笠懸公民館主催事業）

- **クリスマスにホールケーキを**…クリスマスに家族でケーキを切り分けて食べる経験をしてほしくて、地域のケーキ屋さんをお願いして配布しました。（とまり木パントリー特別企画）



- **こども食堂フェア**…地域の子ども食堂9団体と一緒に子ども食堂フェアにミサンガづくり、オリジナル缶バッチづくりで参加しました。（群馬県主催）

成果と今後の展望

とまり木は子ども達の居場所です。とまり木の活動は地域の皆様のお力で成り立っています。コロナ禍を経験し、私達は関わってくださる地域の皆様からさまざまなことを学ばせていただきました。社会の状況を把握し、どうあるべきか、今、何をすべきかを常に感じ、考え、判断しながら子ども達に寄り添っていきたいと思っています。

- ・群馬地域づくり活動賞奨励賞受賞
（群馬県地域づくり協議会主催 2019年7月）
- ・あしたのまち・くらしづくり活動賞振興奨励賞受賞
（公益財団法人あしたの日本を創る協会主催、2019年10月）



アピールポイント！！（特色のある取組）

① 保護者への学びの提供

小・中学校の家庭教育学級をはじめ、家庭教育講演会や、こども園の親子座談会、子育てサークルとの懇談会を実施し、情報交換をしています。保護者の意見や要望を聞きながら、家庭での不安解消や地域全体としての家庭教育の啓発に努めています。

② 地域の居場所づくり

学校の授業等になじめない児童の居場所として「フリースペースひだまり」の運営に携わり、児童の見守りや保護者との交流を通し、子育ての不安解消に努めています。

③ アウトリーチ型家庭教育支援

学校行事や学童保育、居場所づくり等を通じて、家庭教育に悩む家庭の情報を集め、チーム員がそれぞれのケースに対応しています。また、チーム全体でも情報を共有しながら対象家庭を地域の場へと引き込み、必要に応じて福祉部門とも連携しています。

④ 家庭教育アンケート

テーマを決めてアンケートを取り、家庭教育の状況把握をしています。保護者の意識や問題点を掘り起こし、結果を「家庭教育支援チームだより」にて周知しています。
<親子座談会に参加して>

子どものあそび場の情報や車移動のあやし方など、身近な先輩の意見を聞くことができ参考になりました。また、兄弟の多い家庭の子育ての大変さがわかり、初めての子どもの子育ての不安がなくなりました。



その他の活動内容

家庭教育の啓発

学校等の保護者参加の行事に支援チームとして参加するとともに、「みんなで広めよう、シトラスリボンプロジェクト」等を実施しています。また、チーム員の研鑽の場として、千葉県等が実施する研修に参加し情報共有による意識向上を図っています。

<チーム員の研修参加>

家庭教育支援に携わり、さまざまな意見や現役世代の考え方も承知していると思っておりましたが、子どもの状況による対応の仕方や、新しい考え方も学び、ステップアップができました。また、他の自治体や団体の活動も知り、町の家庭教育に活かす場面もあることがわかりました。「今、当たり前家庭教育ができなくなっていることを実感しています。」



成果と今後の展望

家庭教育支援チームは、子どもを取り巻く様々な行事等に参加し、身近で些細な事柄も相談しやすい場を作りながら、保護者の不安の解消、子育てのアドバイスを行ってきました。しかしながら、行事に参加できない保護者や家庭教育の意識が希薄な保護者もいることから、導入の切り口を変えるなどの工夫と、チームでの常設窓口(スマイル窓口)の開設、子どもと保護者がともに参加できるイベントなどを地域や企業等と連携して実施したいと考えています。また、各種アンケートを続けることにより、現役世代の考えの把握と家庭教育への意識づけを進めて、支援チームの活動の幅を広げていくこととします。



【星とおひさまFikaキャラバン】

～学校生活での小さな不安ありませんか～

チーム・活動の紹介

Fika（フィーカ）とは、北欧の生活習慣で、身近な人とお茶を飲みながら話す時間のことです。

茶話会形式によりリラックスした雰囲気の中で、参加者とコミュニケーションを図り、保護者の心理的負担を軽減させることで、家庭での教育力の向上をサポートしています。

保護者が地域のなかで孤立することなく、安心して子育てができるよう、楽しみながら学ぶ場を創りだし、支援することを目的として活動しており、保護者の不安解消や、保護者同士の仲間づくりのためのワークショップの企画及び運営をしています。

チーム・活動の体制

◇活動開始年月：2014年4月

◇活動拠点：東京都八王子市

◇活動範囲：市内全域 人口約560,913人（令和5年9月末日現在）

◇チームのメンバー：19人

（子育て広場相談員、幼稚園教諭免許保有者、教員免許保有者、学校コーディネーター、学校運営協議委員、特別支援教室専門員、特別支援士等）

◇連携機関等：八王子市教育委員会、小学校、生涯学習センター

活動の対象

妊婦とその家族

■ 乳幼児期

■ 小学生

中学生

高校生以上

の子供を持つ保護者・家庭

■ その他（発達障害児の子供を持つ保護者・家庭）

活動場所

幼稚園

保育所

■ 小学校

中学校

高等学校

■ 社会教育施設

福祉施設

保健センター等

企業

家庭（訪問等）

オンライン

その他（ ）

アピールポイント！！（特色のある取組）

主に小学校の保護者会の前後に、出前方式で、Fikaキャラバンというワークショップを開催しています。

ワークショップは、話しやすい雰囲気づくりを第一に、座談会のスタイルをとり、子どもの発達理解と支援方法、学校や幼稚園の場で役立つコミュニケーションスキルを高めるプログラムを組み入れています。

明星大学の星山教授のもとで学んだ「育星講座」修了者（スペシャルサポーター）、ファシリテーション研修修了者、発達とその支援方法に関する知識がある専門家のほか、子育て支援、学校支援を実践しているメンバーが、ファシリテーターとして活動しています。



参加者の声・感想

- ファシリテーターの方の進め方がとても楽しく、皆様と色々な話ができてよかった。
- 先輩ママのお話を聞いて非常に参考になった。
- 同じ年齢の子どもを持つ方たちと笑いながら「子育てあるある」を話せて気持ちが軽くなった。
- 学童に入れると横のつながりがないので貴重な機会だった。

その他の活動内容

- ファシリテーター養成講座の実施
様々な場面で役に立つファシリテーションスキルを育成する講座を行っています。
- 研修会講師
「千葉県家庭教育支援研究協議会」や、「母と女性教職員の会」などでの研修会で講師を務めました。
- 児童向けの授業
「自分自身を知る」、「力を合わせて」などをテーマにして実施しています。



児童向け授業の様子

成果と今後の展望

参加者へのアンケートでは満足度が高く、「心が軽くなった」「先輩保護者からの話を聞くことができ、先の見通しができた」などの多数の感想をいただいています。

年度を重ねるにつれ、実施する学校が増加しており、より多くの保護者の不安が解消されるとともに、保護者と先生の繋がり、保護者同士の繋がりを構築してきました。

より多くの学校で実施することができるように、SNSやHPの充実を図るなど、周知に力を入れていくとともに、今後も子育てや学校生活での不安や悩みを相談できる環境づくりをしていきます。

推薦都道府県:新潟県



村上市家庭教育支援チームwith

(NPO法人村上ohanaネット、NPO法人おたすけさんぽく、ふくちゃ部
NPO法人ここスタ、放課後等デイサービスおひさま合同チーム)

一人より,みんなで子育て♪
生み育て,親子が地域で楽しく生きることを応援します!



村上市家庭教育支援チームwithは全国でも珍しく、村上・関川地域でそれぞれに活動する5つの団体がチームを組んで2018年に発足しました。

不登校、ひきこもり、発達や心身に関する障害を持つ子どもや保護者の支援、妊産婦や乳幼児を育てる家庭の支援など、子育てや若者困難者支援に関わる様々な分野で継続して活動してきた団体同士が連携することで、文字通り切れ目のない支援を展開しています。

『ここで生んでよかった!育ててよかった!だからこれからもここで生きてゆきたい』そんな親子を増やし、応援できるように、行政や地域の皆様と協力し、チーム一丸となって活動しています。



活動開始年月

2018年 3月

活動拠点

新潟県村上市:人口54,977人
(令和5年11月現在)

活動範囲

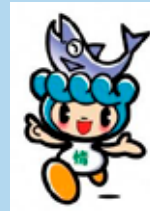
村上市、関川村全域。また相談により新潟県下越地方

チームメンバー

38人(子育てサポーター、ボランティア 20名、元教員 4名、現教員 1名、元看護師兼カウンセラー 1名、元保育士兼カウンセラー 1名、元教員兼民生児童委員 2名、元保育士、幼稚園教諭 4名、保健師兼産業カウンセラー兼THP登録指導者1名、管理栄養士 1名、保護司 1名、施設指導員 2名)

連携機関等

子育て支援センター・保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校
村上市、関川村などの市区町村関係課・新潟県関係課・教育委員会、公民館、医療機関など



県北に位置する村上市は鮭・酒・情の町だよ!

市の花ハマナス



活動の対象

- 妊婦とその家族
- 乳幼児期 ●小学生 ●中学生
- 高校生以上
- 上記の年代の子供を持つ保護者・家庭(祖父母)
- その他(地域の方・支援者)

活動場所

- 公民館等社会教育施設
- 民間団体活動拠点施設
- 福祉施設
- 家庭(訪問等)
- オンライン
- その他(飲食店など)



withならではの活動紹介

合同チームだからできる！『リリーフ制相談支援体制』

子育て・家庭教育に関する相談は、離乳食に関すること、不登校に関すること、発達に関すること等多様です。当団体はそれぞれ違う対象や分野で活動しているため、相談内容に応じて対応する団体を選定し、ケースによっては複数団体で連携して具体的支援につなげています。

子育て応援イベント『親子ふれあいフェスタ』の開催

当団体が実行委員会となり、毎年実施している子育て応援イベントです。約30の市内で活動する子育て支援団体や、そうした活動を応援する団体・企業が協力して、楽しいイベントにしています。



コロナ禍・災害時の家庭支援

3年に及ぶコロナ禍での子育てを応援するため、保育園・学校休校時の低年齢の児童の託児支援を行いました。また、令和4年8月の村上・関川豪雨災害時は、復旧作業などに追われる子育て家庭の支援として、託児や子どもの遊びの広場を実施しました。



主な活動紹介

【親子の交流の場づくり】

- ママカフェ(就学前までの子どもと保護者対象、毎週開催)
- 子どもの居場所(荒川地区の子ども対象、毎月開催)



【発達に特性をもつ子どもと保護者の支援】

- ペアレントトレーニング等学習機会の提供
- 兄弟児のための講座
- 当事者子どもの放課後・長期休業中支援、各種イベント・講座の開催



【引きこもり支援】

- らくーな親の会(保護者交流会)
- 当事者の居場所
- 引きこもり理解のためのフォーラム開催
- 個別相談



【父親支援活動】

- 村上パパスクール(年3回、村上地区公民館と共催)
- 村上パパサークル活動(親子キャンプなど年3回程度)



【産前産後のパパママ応援事業】

- プレパパママのためのパパママ応援教室(毎月開催)
- 産後ケア事業(家事・託児・相談支援、随時)



【不登校の子を持つ保護者支援】

- ホッと一息ランチ会(新潟市、2か月に1回開催)
- ホッと一息交流会(村上市、毎月開催)
- 学習機会提供(不定期)



参加者(支援を受けた方)の声・感想
・子どもが不登校になり、親子ともども家にももっていたが、交流会に参加して親の自分が楽になったら子どもも元気になった。
・子育ては想定外のことの連続だが、何かあったら支援チームに相談しようと思える。

成果と今後の展望

各団体がそれぞれに活動しているが、定期的なミーティングや、連携事業の企画実施や合同での支援活動を通して、互いの活動への理解も深まり、「チーム」としてより強くまとまりが出てきたと感じる。「相談したら、すぐに必要な団体や場所につながり、皆さんが情報を共有して動いてくれていることに大きな安心を感じた」などの利用者の声もあり、合同での活動の力となっている。課題として、支援が必要な方が支援者がいる場に自ら出向くことがハードルとなり、必要な支援に結びつかないケースが増えている。現在も行うアウトリーチ活動に今後一層力を入れて活動していきたいと考えている。

御嵩町家庭教育支援チーム

～御嵩町の家庭教育支援～



チーム紹介

御嵩町では、子育て経験者をはじめとする地域の人達が連携して、パパ・ママの身近なところで子育てや家庭教育に関する相談にのったり、様々な取組や学習機会・地域の情報などを提供したりしています。

笑顔と繋がりを大切に、目指せ、『子育てに優しい町・御嵩町！』



私たちボランティアメンバーは、住んでいる地区も自身の年齢も、子どもの年齢も様々ですが、みんなで御嵩町の家庭教育を応援したいと思い、仲間と先輩サポーターさんと一緒に活動を進めてきました。家庭教育学級を通じてできた仲間とはずっと繋がっています。

こんな温かい学級で、これから親になる方も子育てを悩みながらも楽しんでほしいと思い、微力ながら家庭教育のお手伝いをしています。笑顔と繋がりを大切に、楽しみ、学びながらサポートをしていきたいと思っています。

チーム・活動の体制

- ◇活動開始年月 : 2005年4月
- ◇活動拠点 : 岐阜県可児郡御嵩町
- ◇活動範囲 : 町内全域、3校区（人口約18,111人）
- ◇チームのメンバー : 28人



生涯学習課・生涯学習課ボランティア・総務防災課・福祉課
(子育てサポーター12人・ココママ^{*}14人・生涯学習ボランティア2人)

*ここぞという時に役に立つ先輩ママになりたいと願い、名付けた「ココママ」。先輩ママとして悩みや不安を抱える後輩ママの相談にのり、家庭教育の楽しさを伝えるチーム。

- ◇連携機関等 : 幼稚園、保育園、小学校、中学校
要保護児童対策地域協議会、公民館

活動の対象

- 妊婦とその家族
- 小学生
- その他 ()
- 乳幼児期
- 中学生
- 高校生以上の子供を持つ保護者・家庭

活動場所

- 幼稚園
- 社会教育施設
- 家庭（訪問等）
- 保育園
- 福祉施設
- オンライン
- 小学校
- 中学校
- 保健センター等
- 高等学校
- 企業
- その他 ()

主な活動 0歳児からの家庭教育学級の運営

御嵩町では0歳児から15歳までのそれぞれの年齢や成長にあわせた親としての学びの場づくりを大切にしています。地域の親同士のつながりをつくる、親のニーズを捉えたアイデア溢れる学級（講座）の企画・運営で、家庭教育支援を切れ目なく続けています。家庭教育学級には保健師など福祉関係課の職員も同席し、親子の様子を見守り、子育てに苦慮する親の早期発見、早期対応につなげています。学級の卒業生は自主的に「子育てサポーター」「生涯学習ボランティア」に登録するほど、家庭教育学級が親子の居場所にもなっています。



<乳幼児期 0歳児学級>

- ・子育てに絵本を・産後ヨガ・親子ヨガ
- ・親子育脳リトミック子育て講話
- ・こころパレット～子育てに活かせる私だけの色～
- ・日赤幼児安全法～すくすく子育てサポート講習～等

<乳幼児期 1～3歳児学級>

- ・バルーンアートづくり体験・食育講座・写真講座
- ・クリスマス会 等



「きずな通信」のやりとり

0歳児学級「あいあい」では、参加者にその日の講座の感想や、今、感じている不安や悩み、質問などを『きずな通信』という形で書いてもらいます。その場で個別の相談に応じたり、別日にメールや面談で相談に応じたり、その後の経過を確認したりしています。

相談したい時は右上の にチェック ⇒ 傾聴
⇒ 聞いた内容と答えた内容をメモし、共有
⇒ 育児相談をすすめ、栄養士・保健師につなぐ。

【よくある質問・悩み】

- ・離乳食を始めるタイミングや量について
- ・上の子二人の喧嘩が絶えず、困っている
- ・寝返りがまだできない
- ・決まったものしか食べない 等

参加者の
嬉しい声
がありました。



【性教育講話】

子どもの性教育は気になって知りたいと思いましたが、ハードルが高いものでした。でも、学級に参加して、子どもの頃から始めること、習慣にすることが、子どもの成長につながると感じました。

【クリスマス会】

本日は、このような親子で楽しめるイベントを企画・ご準備していただきありがとうございます。参加型のコンサートは、子どもと一緒に大人も楽しむことができました。カーペットが敷いてあり子どもが自由にできたのもよかったです。コロナ禍の頃は、本当に「孤育て」でした。

【人権子育てコンサート】

ただ歌を聞いて楽しむだけでなく、大人も子どももふれあうという生きていく中で大切なことを教えてもらえました。参加してよかったです！

【0歳児学級】

いろいろな話が聞けて楽しかったです。みんな同じようなことを考えたり、迷ったりしながら、日々子育てをしているのだなと感じて安心しました。

成果と 今後の展望

- 家庭教育学級の卒業生が自主的に「子育てサポーター」「ココママ」「生涯学習ボランティア」に登録し支援が途切れることなく、地域全体で家庭を支え、持続可能な支援体制を構築しています。
- 乳幼児期対象の学級に父親参加を促進するために、家族揃って参加できるよう休日（土曜日）に家族学級（遠足）を開催しています。今後は、開催回数や方法を検討します。

年齢に合わせたサポート

0歳～未就学期

毎週水曜日 10時～12時
おもちゃを介した親子の
絆づくりと、お母さんの
こころの休憩室

○おもちゃ図書館「むすび」
(稲沢市委託事業)



子育て支援課
助産師
管理栄養士
保健センターなど



館内で遊ぶ様子



貸出おもちゃを選ぶ親子 みんなでボードゲーム

6～18歳(学童期・思春期)

毎週火・木曜日 13時～17時
学校に苦手感をもつ子どもの
充電場所
多様な学びの提供
保護者の方の相談

○フリースクール
「tetote」



学校教育課
教育委員会
障害児者相談支援事業所
医療機関など



おやつ作り



電車に乗ってお出かけ



みんな

～39歳(～青年期)

毎月第2日曜日 14時～16時
不登校、引きこもり気味の
ご家庭の交流の場
食材提供やおやつ作りなど
外に出るきっかけにも

○子ども若者食堂
「てとてプラス」



社会福祉協議会
福祉課
子ども食堂支援団体など



フードパントリー



保護者の座談会

参加者の声・感想

- ・tetoteに通い続けたことで自信が
ついてきたようです。少しずつ教育支援
センターや学校へ短時間登校するよう
になりました！
- ・子育てが精神的にきついときもあり
ますが、いつも温かく親子に接してい
ただき、自分たちの味方がいるようで
とても感謝しています。

その他の活動内容

○妊産婦さん向け講座、 ワークショップの開催



○不登校の理解に 関する講座



参加者の声・感想

- ・参加しやすく、同じ年頃のお子さんともママに出会えて仲良くなれてよかった。
- ・専門家に聞いて、不安が安心に変わった。
- ・コロナ禍で出産したので、初めて人に出会えた！それだけで嬉しかった！

成果と今後の展望

これまでの活動の成果

- ◎自主事業だったおもちゃ図書館が、稲沢市の委託事業になった。
→市内子育て支援センターとも連携し、利用者を見守ることができています。
- ◎2022年より、フリースクールの出席が学校の出席日数としてもらえるようになった。
→文部科学省の多様な学び(教育機会確保法)ができたことで、子ども一人一人の頑張りを認めてもらえるようになりました。

実績(課題)を踏まえた今後の取組の展望

- ◎子どもたちはあっという間に大人になっていきます。今後は義務教育後のサポートに加え0歳～中学生対象のアウトリーチ型事業、保護者への家庭教育の普及(幼児期のペアレント・トレーニング～就学前準備～学童期～思春期の子の理解など連続性のあるもの)、心理士の先生との連携、お母さんのサポート体制の充実など、より家族全体を見据えたサポートをしていきます。

保護者一人一人に寄り添った支援

〈いつでも相談できる安心感〉

育児相談には子育てコンシェルジュが対応し、必要に応じて専門職につなげています。保育園等とも連携し、親子の様子について情報を共有することもあります。

SNSを活用した悩み相談も行っており、24時間体制で対応するなど、保護者が相談しやすい体制づくりに努めています。

支援を受けた方の感想

なんて優しくない母親なんだと思って自己嫌悪になっていたのが、ほっとしました。娘に八つ当たりしてしまったら、きちんと謝ってしっかり抱きしめたいと思います。夫にも話してみようと思います。お話を聞いてもらって、返事もいただけて心が落ち着きました。ありがとうございました😊



〈連携の輪を広げて保護者をサポート〉

福知山市から転出する場合には、転居先の支援機関と家庭をつなぐなど、他市・他府県とのネットワークを活用し保護者の安心した居場所づくりを支援しています。

また、移住定住サポートセンター（福知山市まちづくり推進課）のHPにも「すくすくひろば」に関する情報を掲載し、子育て世代の移住者の孤立を防ぐよう、情報を発信しています。

その他の活動内容

〈多彩な講座やイベント〉

運動・英語・音楽などの講師や栄養士、助産師など専門職が在室し、抱っこひも相談日・歯の話などさまざまな講座やイベントを開催しています。

参加者の感想

離乳食を始める時期や、一回食から二回食へのタイミングなどわからないことだらけでしたが、栄養士さんに相談できて安心しました。



〈中高生による乳幼児とのふれあい学習〉

生徒は、家族や周りの人に支えられて生活していること、命の大切さや子育てについて学び、将来の自分のあり方について考える機会になっています。同時に、参加保護者にとっては、中高生とのふれあいを通して、自分の役割や成果を認識し自己肯定感を高めることができるなど、双方により効果があります。

参加者の感想

積極的に関わろうとする生徒の姿が見れて嬉しかったです。こんな貴重で楽しい体験をさせて貰えて本当に感謝しています。ありがとうございました！2人目授かったら、または是非参加したいです！本当にありがとうございました。



〈保護者へ“届く”広報の工夫〉

市の新生児訪問時に「すくすくひろば」のリーフレット・行事予定を配布することにより、周知を図っています。また、子育てに関する情報を掲載した情報誌を年3回発行し、SNSを活用してイベント等の情報を発信しています。



成果と今後の展望

【成果】子育て中、周囲につながりがなく、孤立しかねない親子に、同じように子育て中の親とスタッフをつなぐことで、つながりを生み出し、子育て中の親に大きな安心感を与えています。

【今後の展望】転出入の多い福知山市での子育ては、周りに手助けをしてくれる人や相談相手のいない子育て家庭も多く、また現代の子育てを取り巻く情勢は、孤立しやすい、子育てで笑顔になりにくい環境と言わざるを得ません。

当団体を通じて、また「すくすくひろば」に来ていただくことをきっかけに、福知山で安心して、また楽しく笑顔で子育てができる方が一人でも増えるよう、今までの成果に甘んじることなく、これからも変わらず地道に尽力してまいります。

アウトリーチ型支援



① 家庭教育に関する状況把握調査

○公立小学校の1年生と4年生のいるご家庭を対象に、子育てや家庭教育の困りごとなどを伺う調査を実施します。

② 公立小学校1年生のアウトリーチ活動

○家庭教育に関する状況把握調査の回答に応じて、公立小学校1年生のお子様がいるすべてのご家庭にアウトリーチ（家庭訪問又は電話連絡）をします。

サロン型支援



いくカフェ

○子育てのことなどを気軽に話し合い、ほっと一息つける場所です。

○小学校区ごとで開催しているほか、企業の特徴を活かした企業版いくカフェも開催しています。

セミナー型支援



① 家庭教育講習会・講演会

○保護者のみなさんが家庭教育を学ぶ機会として、開催しています。

② 思春期保護者向けセミナー

○思春期特有の悩みに関する学びの場を提供します。

その他の活動

従業員の家庭教育応援や学校・地域への貢献活動に取り組む企業（団体）に「**家庭教育応援企業等登録制度**」に登録いただき、地域においてサロン型支援の実施や家庭教育支援事業の周知に協力いただいています。登録いただいた企業等にステッカーを配布し、事業所等に掲示いただいています。



登録企業等に配布しているステッカー

成果と今後の展望

これまで実施してきているアウトリーチ型・サロン型・セミナー型それぞれの支援に対する活動を通じて、保護者の学びの場の提供や保護者との顔の見える関係づくり、保護者の不安や悩みの軽減などに繋がってきています。

また、家庭教育を応援する企業等を登録する「家庭教育企業等登録制度」を実施することで、親子の育ちをまち全体で応援する機運を高めることができました。

今後も、「家庭教育はすべての教育の出発点」を合言葉に、保護者が子育ての悩みや、不安を抱えて孤立しないよう、また安心して子育てができるように、地域や企業の方々とともに、子どもの健やかな育ちの基盤である家庭教育の充実に向けた活動に取り組んでいきます。

川西町家庭教育支援チーム 子育て応援隊

かわにし WAKU・WAKU+1



(かわにしワクワクプラスワン 通称ワクプラ)

「子どもたちを地域の温かいつながりの中で育てていこう。親子が地域のいろんな世代の人たちとつながれる機会や場をつくろう」という思いで集まった30代から70代までのメンバーで子育て応援隊「かわにしWAKU・WAKU+1」を立ち上げました。座談会やイベントを通じてメンバー同士の交流を深め、チームとして世代を越えたつながりで活動しています。

【ワクプラメンバーールール】

- *みんなが自由に意見を言える場にしよう。
- *いつでも参加できる、ゆるやかなつながりのある場にしよう。
- *自身が楽しいと思えることをやろう

チーム・活動の体制

- ◇活動開始年月：2017年
- ◇活動拠点：奈良県磯城郡川西町（人口約8300人）
- ◇活動範囲：川西町内全域



- ◇チームのメンバー：20人
(元教員、元保育士、町会議員、県会議員、子育て経験者、行政職員など)

- ◇連携機関等：行政担当課、学校、幼稚園など

活動の対象

- 妊婦とその家族
- 乳幼児期
- 小学生
- 中学生
- 高校生以上
- 子どもを持つ保護者・家庭

活動場所

- 川西文化会館
- 社会教育施設

「みんなでWAKU WAKUするイベントをして、
みんなのワクワクが1つプラスになるように！」

* KAWANISI SMILE
FESTA



* おそとDEわくぷら



ちよこっとシリーズ

- * ちよこっとなつまつり
- * ちよこっくてづくりひろば
- * ちよこっと縁日



* 絵の本ひろば
プラレールひろば



感想

「地元のいろんな年代の方々と
交流ができてよかった」
「いろんな体験が
できてよかった」

私たちは、

「いろんな年代の人が集い、つながれる場」
「お母さんたちがホッとできる場、笑顔になれる場、
自分の思いを話せる場」
「子どもたちがワクワクするような体験をできる場」
を作っていきたい。

成果と今後の展望

メンバー一人ひとりが主体となり交流イベントを企画し、それぞれができることを協力しあってイベントを実現している。一連の過程は、メンバーにとって共に何かをつくっていく楽しさや充実感・喜びを共有しながら、チームワークを築いていく過程でもあった。何より、それぞれのイベントが多くの子供にとって地域のいろんな世代の人と出会い、ふれあえる場となった。

これからも、関係機関や地域と連携を図り、人と人、そして地域をつなぎ、子育て中の人々が少しでもホッとでき、親子が笑顔になれるような居心地のよい場、いろんな世代が集い、つながりを感じられる場をつくっていきたい。

つながることを大切にした活動の継続

ベルト型訪問を継続してきたことにより、保護者に安心感をもってもらうことができました。快く迎えてくれる家庭が増えてきています。➡ **保護者とつながる**

保護者の相談ごとについては『ほっとほーむ』の定例会で共有します。必要な場合は、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、臨床心理士、学校、子ども未来課等、関係機関と連携協力して対応しています。➡ **関係機関とつながる**

教育支援センターでは、『ほっとほーむ』のメンバーが児童生徒の支援に関わっています。➡ **子どもとつながる**

このように、「つながること」を大切に、チームとして保護者や子どもたちと関わることを目指しています。



保護者からの声・感想

- 「いつも気にかけてもらってありがとうございます。」
- 「また、話を聞いてください。」

その他の活動内容

- ◇「ほっとさろん」（のんびり・虹色ほっと）の開催
ゆっくりとお茶を飲みながら話ができ、保護者が気軽に集える場として定期的に開催しています。
- ◇広報紙「ほっと通信」の発行
年3回発行し、町のホームページにも掲載しています。
- ◇LINEによる相談
気軽に相談できるツールとして開設しました。
- ◇マグネットシートの配布
相談案内として家庭に配布しています。



目につく所に
貼りやすい!



保護者からの声・感想

- 「日頃の不安や悩みを聞いてもらい、すっきりしました。」
- 「他の参加者の話が参考になり、元気をもらいました。」

成果と今後の展望

保護者や学校からの相談件数の増加とともに、保護者の「家に来てくれることがうれしい。」「あの支援員さんにもう少し話を聞いてもらいたい。」等の声を聞いて、こちらもうれしい気持ちになり、改めて、アウトリーチ型支援の効果を実感しています。

一方、気になる家庭の保護者には、「相談したくない」「どこに何を相談すればよいのか分からない」等の傾向が見られます。保護者や子どもたちとのさらなる信頼関係構築に向け、広報活動や訪問の仕方等を工夫することや、保護者同士あるいは地域とのつながりを意識した活動が必要だと考えています。

今後は、義務教育段階の家庭教育支援を軸に据えつつ、福祉関係機関とのさらなる連携により、就学前支援や義務教育修了後の支援へも活動を拡げていくことで、切れ目のないより効果的な支援体制の実現に向かって活動を続けていきます。

真庭市家庭教育支援チーム

ふらっと



真庭市家庭教育支援チーム「ふらっと」は、真庭市の乳幼児期から中高生までの子どもを持つ保護者、子育て準備期の方、孫を持つ祖父母の方などを対象に、2015年度から活動しています。

保護者の悩みや不安の軽減・つながりづくり、子どもや保護者の居場所づくりを目指しています。教員や保育士、保健師のOBや主任児童委員、子育てサロン関係者、子育て経験者をチーム員とし、**①学びの場**、**②居場所づくり・相談対応**（おしゃべり広場）、**③子どもの居場所づくり**（遊びの日）等を行っています。

その他、啓発資料の作成・配付を行っています。

チーム・活動の体制

◇活動開始年月：2015年6月

◇活動拠点：岡山県真庭市

◇活動範囲：市内全域（人口：41,740人 ※2023年12月1日現在）

◇チームのメンバー：19人

（元教員10人、元保育士3人、精神保健福祉士1人、子育て広場関係者2人、主任児童委員1人、子育て経験者2人）

◇連携機関等：学校園、子育て広場、行政（教育・健康福祉・子育て）、子育て支援関係団体、NPO法人等

活動の対象

妊婦とその家族

■ 乳幼児期 ■ 小学生 ■ 中学生 ■ 高校生以上
の子どもを持つ保護者・家庭

■ その他（小中学生、孫を持つ祖父母等、子育て支援関係団体等）

活動場所

■ 幼稚園・保育園・こども園 ■ 小学校 ■ 中学校 高等学校

■ 社会教育施設 福祉施設 ■ 保健センター等 企業

家庭（訪問等） オンライン その他（ ）

アピールポイント！！（特色のある取組）

★学びの場の提供★

市内学校園での入学説明会や参観日及び子育て団体が行うイベントなどで「親育ち応援学習プログラム」等を活用したワークショップ型の学びの場を提供しています。



参加者同士のつながりづくりや子育てに関する気づきや学びの場となっています。

参加者の声・感想

子育ての悩みを持っているのは自分だけじゃないことがわかり、ほっとした。今日のワークはヒントになることがたくさんあり、また参加したいと思った。

★遊びの日★

年に3回程度、市内各地で遊びの日を開催しています。「ふらっと」が呼びかけて、地域の様々な方と連携して実施しています。



子どもたちが自由に遊べる場と保護者等のつながりづくりをねらいとしています。



★おしゃべり広場・おしゃべりカフェ★

毎月1回子育て中の保護者が集まり気軽に話ができる「おしゃべり広場」を開催しています。さらに、そこに参加された保護者が集まり、おしゃべりができる場も別に開催するようになり、保護者同士のつながりの輪が広がっています。



また、飲み物を片手にリラックスしておしゃべりする「おしゃべりカフェ」も、3か月に1回開いています。小中学校から依頼があれば、参観日等で「出張おしゃべりカフェ」も開催しています。

参加者の声・感想

どこに相談しようかと思っていたが、話してみても良かった。同じような悩みのある方と経験談を話せるのが良かった。

★わいわい子育て親育ち★

乳幼児とその保護者を対象にふれあい遊びのワークショップを開催しています。日ごろふれあうことの少ない父親や祖父母も参加され、楽しいひとときを過ごしています。



その他の活動内容

★啓発資料・広報紙・プログラム開発★

啓発資料は入学説明会やワークショップ等で参加者に話をしながら配付しています。また、年に数回、子育て情報紙「ふらっと」を作成し、子育てに関わる情報やイベントについて、SNSや紙媒体で保護者にお知らせしています。

また、独自のワークショッププログラムも作成し、実施するようにしています。



成果と今後の展望

- ・ワークショップ型研修で、「子育ての悩みを話す仲間がいないと感じていたが、話し合うことで、また子育てをがんばろうと思えた。」等の声が聞かれ、保護者のつながりづくりや安心感につながっているのが嬉しいです。次年度は、就学前の保護者対象の研修も増やしたいと思います。
- ・おしゃべり広場では、参加してくださった保護者のつながりから、「悩みや不安のある方に声をかけ、この場を広げていきたい。」と開催回数も増え、違う場所でも開くことができるようになってきました。必要な方に必要な場ができつつあると思うので、さらに充実させたいと思います。
- ・遊びの日では、規制や禁止をできるだけ減らした場を大切に、子どもたちが生き生きと自由に遊ぶ姿を見ることができました。地域の方々との連携が進み、今後もその活動を市内各地に広げていきたいと思っています。



【あさなえ学園家庭教育支援チーム】

あさらぶりん

あさらぶちゃん



つながりん



チームの名称「あさらぶりん」は
浅江小学校と浅江中学校がつながることで
誕生しました!



基本コンセプト

「学べる・つながる・相談できる」家庭教育支援

「学校と家庭と地域をつなぎ、子育て家庭を応援したい!!」

「家庭の元気は子どもの元気の源、子どもの元気は家庭の元気の源!」を合言葉に活動しています。

活動の目的

- 小学校就学前の幼稚園・保育園の保護者と、小・中学校の保護者とのつながりをつくり、さらには保護者同士の横のつながりも深める。
- 子育てに関する、様々な疑問や心配事を気軽に相談できる場を設定し、不安軽減の一助とする。
- 保護者の縦と横のつながりに地域の方も含めたつながりを深めることで、家庭教育支援の輪を広げる。

チーム・活動の体制

◇活動開始年月：2019年4月

◇活動拠点：山口県光市

◇活動範囲：浅江中学校区全域（人口約15,000人）

◇チームのメンバー：6人

（家庭教育支援チームアドバイザー 兼食生活改善推進員 兼主任児童委員1名、家庭教育アドバイザー養成講座修了者、学校運営協議会委員、子育て経験者、学校関係者）

◇連携機関等：小学校、中学校、コミュニティセンター、社会福祉協議会、地域のNPO法人



活動の対象

- 妊婦とその家族
- 乳幼児期
- 小学生
- 中学生
- 高校生以上の子供を持つ保護者・家庭
- その他（未就学の子どもをもつ保護者・家庭）

活動場所

- 幼稚園
- 保育所
- 小学校
- 中学校
- 高等学校
- 社会教育施設
- 福祉施設
- 保健センター等
- 企業
- 家庭（訪問等）
- オンライン
- その他（ ）

「あさなえしゃべり場」「あさなえCafé」開催

- 毎年、小学校の就学時健康診断の実施に合わせて、先輩保護者が新入生保護者の悩み相談にのったり、実際の学校生活のアドバイスをしたりしています。入学前に保護者同士のつながりが生まれるよい機会となっています。
- 参観日や懇談会の実施に合わせて、子育てについて気軽に話することができるカフェを、小学校のコミュニティ・スクールルーム(CSルーム)で、開催しています。



～参加者の声(アンケートより)～

- ・登校班や学校生活について知ることができ、不安が軽くなった。
- ・自分以外にも同じような悩みをもっている人がいて安心した。
- ・先輩保護者からのアドバイスが参考になった。
- ・誰に相談したらいいか分からなかったが、多くの保護者の方とつながりができて不安が軽くなった。

「おにぎり大作戦！」 「おにぎり食堂」



- 小学校のCS健康安全力部会と連携して、子どもたちが食を通して健康な体づくりができるよう支援しています。今年度は、給食で海苔とご飯が献立にある時に合わせて、おにぎりづくりに取り組みました。
- 夏休み特別企画として「おにぎり食堂」を開催しました。食生活改善推進員や地域の学校応援団の方たちと連携して開催し、保護者と地域のつながりも深まりました。



「学用品の製作・販売」

- 小学校の1日入学では、保護者ボランティアの方と一緒に手作りの学用品を販売しています。製作の過程でも、つながりの輪が広がっています。



この他にも、地域の子育て支援事業への協力など、様々な家庭教育支援活動に携わっています。

「あさらぶ寄り添い隊♥」 「昼休みサロン」

- 子どもたちが心も体も元気に学校生活を送ることができる居場所づくりをしています。小学校では、登校支援や見守り支援を行う「あさらぶ寄り添い隊」、中学校では「昼休みサロン」を開催しています。ただ一緒にいて寄り添ったり、何気ない会話を楽しんだりして信頼関係を築いています。子どもの元気が家庭の元気につながります。



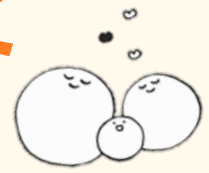
成果と今後の展望

**「できる時に できる事を 楽しく」
困った時は助けてくれる仲間がいます!!**

活動をきっかけにして、学校や家庭での子どもの様子、勉強や日常生活の些細な不安や悩みなどを気軽に話せるようになり、保護者同士のつながりや地域の方とのつながりが広がっています。また、家庭教育支援のサポートメンバーも増えてきました。今後、家庭や子どもたちのニーズに合わせて持続できる取組を、さらにつながりの輪を広げ、みんなが元気になる活動を続けていきたいです。

家庭教育・子育てを応援します！

伊予市家庭教育・子育てサポートグループ



グループ・活動の紹介

「家庭は全ての教育の出発点」とはいえ、忙しい毎日で子どもとのコミュニケーションやしつけに戸惑いや息詰まりなど、一人で悩んで抱え込んでしまうことってありませんか？
 ご家庭での皆さんの頑張りを支え、地域や専門機関とのつながりづくりをお手伝いするため、「伊予市家庭教育・子育てサポートグループ」を結成し、保護者や子どもに寄り添った活動を心がけながら、家庭の教育力向上や未来を担う子どもたちの健全育成を目指して活動しています!!

グループ・活動の体制

活動開始年月：2011年6月～

活動拠点：愛媛県伊予市

活動範囲：市内全域（人口約35,500人）

グループのメンバー：10人（2023年6月時点）

特別支援教育巡回指導員、適応指導教室指導員、元教員、元保育士、読み語り隊、児童クラブ支援員、元児童館長 など

連携機関等：伊予市（子育て支援課、学校教育課、社会教育課）
 保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、児童センター、児童館



活動対象

- 妊婦とその家族 乳幼児期 小学生 中学生
- 高校生以上の子供を持つ保護者・家庭 その他（ ）

活動場所

- 幼稚園 保育所 小学校 中学校 高等学校
- 社会教育施設 福祉施設 保健センター等 企業
- 家庭（訪問等） オンライン その他（ ）

アピールポイントはここ！

親子でいっしょに遊びながら学ぶ… それが「まなそび (MANASOBI)」!!

児童センターや児童館と連携して、参加している親子に「遊びの中の学び（まなそび）」を提供しています。協力団体と綿密な打ち合わせを行い、参加者のニーズに沿った内容を提供できるよう心がけています。

例を挙げると、簡単なクイズやマナービーズをクリアして家庭学習で利用できる「ひらがなカード」を収集したり、矯正グッズで鉛筆の使い方を練習したり、空気砲で遠くの的に空気の塊を当てたりするなど様々です。



家に帰ってお姉ちゃんとも「ひらがなカード」を使って遊んでみたい！

遊びながら楽しく学ぶことができてよかった！

その他の活動内容

① 子育て現役世代への学習会・保護者向け絵本の読み聞かせ

- (1) 『えひめ家庭教育応援学習プログラム』を活用した学習会
- (2) 大人向け絵本の読み聞かせ、
子どもの年齢・成長に応じた絵本の選び方の紹介

② 家庭教育支援に関する情報発信

- (1) 家庭教育情報誌「ほのぼの」を全戸配布（年2回）
- (2) 家庭教育周知用チラシの配布（年1回）
- (3) 福祉・子育て利用者支援事業相談窓口の周知（随時）

③ 親子体験型学習会

- (1) 『親子でまなそび (MANASOBI) チャレンジ!!』
- (2) 『親子で調理実習』（鯛めし・シュークリームなど）



他のご家庭も同じ悩みを抱えていて安心しました！

コロナで他の保護者と話す機会がなかったから、
いろんな意見を聞くができてよかった！

親子で体験することの大切さを学ぶことができました。
まずは家庭菜園から子どもと一緒にやってみます！

成果と今後の展望

新型コロナが落ち着き、公民館に加え、保育所や幼稚園にも活動範囲を広げて保護者向けの学習会を各地で開催できるようになりました。

今後は、未実施だった地域の施設にも声を掛け、家庭教育支援の輪を広げる予定です。

さらに、家庭教育支援に比較的関心が薄い方々や登校ができない子どもを抱える保護者、プレママ・プレパパへ支援ができる体制づくりを目指し、本市の家庭教育の充実を図りたいと考えています。



徳之島町家庭教育支援チーム 「つむぎたい」



チーム・活動の目的

徳之島町家庭教育支援チーム「つむぎたい」は、子育てを終えた先輩ママさん、現役ママさんが中心となって、「できる人が、できる時間に、できること」をそれぞれのスキルを活かしながら、子育て家庭を応援する様々な活動に取り組んでいます。

つむぎたいは、チーム名の由来でもある、奄美群島の特産品「大島紬」と掛け、糸を紡ぐように、人と人、地域と家庭、学校と家庭を紡いでいくとともに、子育てを次の世代へ紡いでいく活動をとおして、地域の子育ての拠り所となることを目指して日々楽しく、元気いっぱい活動しています。



チーム・活動の体制

◇活動開始年月：2014年9月

◇活動拠点：鹿児島県徳之島町

◇活動範囲：町内全域（人口9,663人）※2023.11.1現在

◇チームのメンバー：6人

（元教員1人、NPO法人代表1人、子育て経験者2人、不登校支援員1人、行政職員1人）

◇連携機関等：教育委員会、幼稚園、保育園、小学校、中学校、保健センター



活動の対象

妊婦とその家族

乳幼児期 小学生 中学生 高校生以上

の子供を持つ保護者・家庭

その他（ ）

活動場所

幼稚園 保育所 小学校 中学校

高等学校 社会教育施設 福祉施設

保健センター等 企業 家庭（訪問等）

オンライン その他（ ）



特色ある活動

◇家庭教育啓発資料の作成・活用

教育委員会と連携し、発達段階ごとのアドバイスの載った身長計や子育て応援ブックなど、家庭教育啓発資料を作成して対象の世代へ配布しています。中でも小学校入学前の園児を対象として基本的な生活習慣確立のために作成した「早寝、早起き、朝ごはん」にごほうびシール形式で取り組んでもらう啓発資料は、取り組みの成果を教育委員会に報告してもらい、表彰する取組を実施しており、毎年好評を得ています。



参加者（支援を受けた方）の声・感想

- ・ 親子一緒に目標を立てて取り組むことができたことで継続した取組につながっている。
- ・ 楽しみながら取り組むことができた。子どものモチベーション維持につながり継続することができた。



その他の活動内容

◇家庭教育講話の実施



乳幼児検診や就学時前健診、家庭教育学級、各種講座の機会を使って「子育てのヒント」や支援員の得意分野についてお話ししたり、子育てに関するワークショップを開催しています。

◇親子体験講座の実施



親子と一緒に取り組むことのできる「親子料理教室」や「親子ボランティア講座」等を実施し、親子の絆や家族間の交流を深めるとともに、保護者と地域、保護者と保護者をつなげる活動をしています。

◇子育てサロン「ママnavi」の開設

子育てサロン「ママnavi」を、誰でも気軽に参加できる、保護者の交流と相談の場、学びの場として不定期開催し、保護者の悩みの共有や心の負担の軽減を図っています。



成果と今後の展望

- ◇ 保護者世代が集まるイベントへの参加や、社会教育だよりへの「家庭教育支援チームつむぎたいからのひとこと」の掲載、インスタグラムの開設・情報発信により、幅広い世代への認知度が上がり、学校や地域、保護者からの相談・依頼が増えています。
- ◇ 今後は、各校区に1人以上の家庭教育支援員の配置を目指して支援員の仲間づくりを進めるとともに、現在の活動をブラッシュアップしながら継続し、福祉や地域との連携を強化し、真に支援の必要な家庭を次の支援へとつなげ、地域と連携して子ども達の成長を支える仕組みづくりを図ってまいります。

家庭教育支援チーム



公募キャラクター

こもんず



【チーム・活動の紹介】

- ・地域全体で家庭教育を支える基盤づくりを進めることを目的に2008年4月に結成。地域の行政機関・学校等と綿密に連携を取り、家庭教育支援のコーディネート役としての存在となっている。
- ・子育てに悩みや不安を感じている保護者の方に「こもんずカフェ」（個別相談）と「こもんず広場」（子育て井戸端会議）を提供している。
- ・小学校新入生の保護者に対して講座を計画的に実施している。多くの家庭から要望があった、ツボミスクールや公民館の講座と連携した性教育講座などを意欲的に計画している。会場まで足を運びにくい家庭にはZoom等を利用してリモートで参加できるようにしている。
- ・令和5年度から情報紙を配付のみでなく、小・中学校でメール配信をしている。

チーム・活動の体制

◇活動開始年月：2008年（西暦）4月

◇活動拠点：千葉県千葉市稲毛区

◇活動範囲：千葉市立小中台中学校区（人口約5万人）

◇チームのメンバー：8人

（臨床心理士、区子育てサポーター、民生委員、児童委員、保護者）

◇連携機関等：小学校、中学校、公民館、社会福祉協議会、教育委員会、保健センター



千葉市稲毛区

活動の対象

妊婦とその家族

乳幼児期

小学生

中学生

高校生以上
の子供を持つ保護者・家庭

その他（ ）

活動場所

幼稚園 保育所 小学校 中学校 高等学校

社会教育施設 福祉施設 保健センター等 企業

家庭（訪問等） オンライン その他（ ）

性教育講座やツボミスクール等の講座

どうする？性教育
保護教諭から聞く 学校の性教育のいま

日時：2x18 (土) 10:00~11:30
対象：小中学生のお子さんをもつ保護者
定員：20人、定員多数の場合は抽選
講師：木更止 小学校養護教諭 先生

ツボミスクール
～成長期の女の子の心と体の変化を知ろう～

日時：2023年9月25日(月) 10時～11時
対象：中学生・中学生の保護者
会場：小中台公民館 2階講座室 (定員 30名)



就学時健診講座

マインドフルネス講座

参加者の声・感想

- ・まだ小2なので先の話だとは思いますが、知識として知っていて無駄なことは無いと思う。とても勉強になった。
- ・話を聞いてから、自分が学んだことを早速娘に話してみた。親子で下着や体型の変化などについて話すきっかけを持つことができた。
- ・今年中学に入学する小学校6年生の男の子です。何をしたらいいのか、特に異性なので性についての関わり方が本当にわかりません。今までは何もしてきませんでした。学校でどんな事を教わっていてこれから思春期になり犯罪などに巻き込まれないようにするのに性についてどう教えて関わっていけばいいのか知りたいです。
- ・我が家には娘と息子がおります。男女で話す内容の違いや気をつける点などがあれば教えていただきたいです。

地域協力者会議 相談活動

【地域協力者会議】 学校、PTA、青少年育成委員会、保育所や幼稚園、公民館、保健福祉センターなどの代表に参加いただき、子どもや子育て家庭の状況や各団体の取組みについて率直な意見交換や教育・保健福祉現場の情報共有を図る。

【相談活動】 「こもんず広場(子育て井戸端会議)・こもんずカフェ」を月に1回実施している。参加者が新しい関係を築きながら気軽に話すことができる。子育ての悩みや不安を持つ保護者を対象に、個別相談も実施している。

メンバーのつぶやき
子育てに心配はつきものです。我が家にも小・中学生の子どもがいますが、学校に行きたくないと休みがちになり心配だった時、『こもんず広場』で話を聞いてもらって気持ちが少し軽くなりました。「うちの子だけじゃないんだ。」とか「うちでもそうしてみよう!」と、少し安心できるかもしれません。



ツボミスクール

地域協力者会議

子供の本を読む会

成果と今後の展望

成果

- ・オンラインセミナーを実施し、講座の実施方法の幅を広げることができた。
- ・子育てに関わる、学校・公的機関・地域団体との連携がはかれた。
- ・公民館との共催行事を計画し充実させることができた。
- ・チームに対する認知度や理解が年々高まってきた。

今後の展望

- ・個別相談の在り方について検討をすすめていく。
- ・参加できない保護者に対する支援を可能とする取組の充実。
- ・地域の家庭教育支援を支える人材の発掘と育成。
- ・多様な家庭や地域の実態の把握及び地域諸団体との情報共有。
- ・小中台地域における、家庭と子育て・家庭教育支援に携わる各種団体とをつなげる「協働の核・コーディネート組織」としての価値の向上。
- ・支援効果の検証とチーム全体での研修。

文部科学省における家庭教育支援の推進に関する情報

子供たちの未来をはぐくむ

家庭教育

家庭教育支援について、各地域の取組を含めた様々な情報を文部科学省のポータルサイトに掲載。



インターネットで「家庭教育ってなんだろう?」と検索

家庭教育支援に関する各種動画等の提供



家庭教育支援チームの活動例 など
 (YouTube)文部科学省動画チャンネル
 ・メンバーの得意分野を生かした多様な取組
 ・地域における支援のネットワークづくり
 ・全戸訪問による相談支援 など

つろう! 家庭教育支援チーム ～地域で家庭や子供を支える～

「家庭教育支援チーム」の手引書

身近な地域において保護者への支援を行う「家庭教育支援チーム」の組織化や活動を支援することを目的としたリーフレット。



地域で「家庭教育支援チーム」を立ち上げる際に必要な視点を、事例、コラムなどを交えて整理した手引書(平成30年11月)。



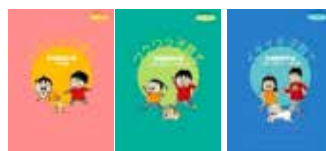
訪問型家庭教育支援の関係者のための手引き

地方公共団体で訪問型家庭教育支援を実施する際に、ヒントとなる情報や知見、ノウハウなどを整理。



家庭教育手帳

保護者などに対する子育てのヒント集として作成。「乳幼児編」、「小学生(低学年～中学年)編」、「小学生(高学年)～中学生編」の3種類をホームページに掲載。



地域の活動で子供たちや保護者に関わるみなさまへ 児童虐待への対応のポイント ～見守り・気づき・つなぐために～

家庭教育支援や地域学校協働活動等の関係者に向けて

地域の活動で子供たちや保護者に関わるみなさまへ

児童虐待への対応のポイント

～見守り・気づき・つなぐために～



子供たちや保護者と関わる中で「あれ?」「もしかして?」と思ったら、ためらわずに相談・通告してください。

～みなさんの一言の電話で救われる子どもがいます～

「児童虐待かも…」と思ったら、すぐにお電話ください。

189

文部科学省

児童虐待への早期対応のために、「児童虐待への対応のポイント～見守り・気づき・つなぐために～」を作成し、文部科学省のホームページに掲載しました。

この資料では、地域において児童虐待の未然防止、早期発見・早期対応ができるよう、地域における家庭教育支援関係者や、放課後子供教室などの地域学校協働活動関係者等に対して、児童虐待への対応に関して留意すべき事項をまとめています。



「家庭教育支援チーム」の登録制度

○登録制度の趣旨

文部科学省では、すべての保護者が安心して家庭教育を行うことができるよう、地域において主体的に家庭教育支援の取組を行う「家庭教育支援チーム」の設置を促進するとともに、各地域の取組状況の把握や効果的な事例の収集・情報発信による全国の様々な地域における家庭教育支援の取組の活性化のために、「家庭教育支援チーム」登録制度を実施。（平成22年度～）

○登録のメリット

- ①文部科学省ホームページにおいてチームの活動を掲載し、全国に向けて発信
- ②文部科学省から家庭教育支援に関する情報や資料の提供
- ③家庭教育支援チームのロゴマークの使用 など


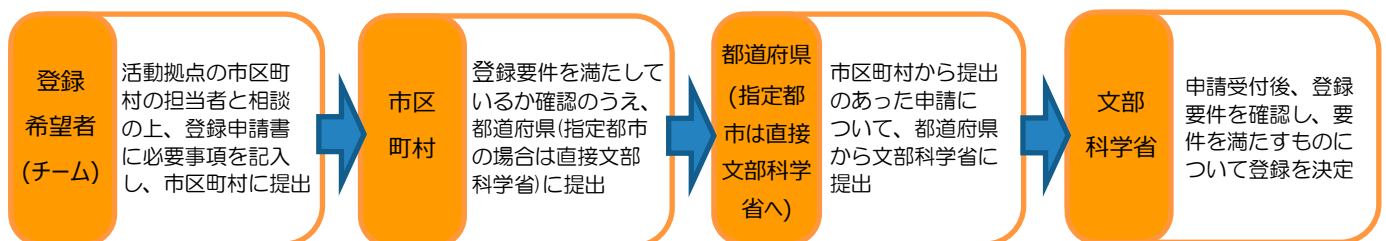
○登録要件

地域の多様な人材を中心に組織し、保護者への家庭教育支援の取組を行う家庭教育支援チームであり、次の（１）から（９）までの要件をすべて満たすことが必要です。

- （１）具体的な取組内容として、家庭教育の自主性を尊重しつつ、以下のア～エのいずれか又はこれらを組み合わせた取組を行うものであること。
 - ア 保護者等への学びの場の提供
保護者等に対する主体的な「学び」と「育ち」に関する学習機会の提供や情報提供、相談対応等
 - イ 保護者等への地域の居場所づくり
地域資源を活用した親子参加型の体験型プログラムの実施・情報提供や日常的な交流の場の提供等
 - ウ アウトリーチ型家庭教育支援（※保護者の居場所に出向いて届ける支援）
保護者の居場所（自宅や学校、企業等）に出向いての情報提供や相談対応等
 - エ その他、取組の目的・内容等が家庭教育支援に資するもの
- （２）継続的な取組を行うものであること。
- （３）団体自らが、暴力団、暴力団関係企業、総会屋若しくはこれらに準ずる者又はその構成員（以下総称して「反社会的勢力」という）ではないこと。
- （４）団体の構成員が反社会勢力ではないこと。
- （５）営利を主たる目的とした活動を行うものでないこと。
- （６）特定の政党、政治団体、宗教団体等の思想、信条及び利害に偏った目的による活動を行わないこと。
- （７）上記（６）に該当しない場合であって、当該家庭教育支援チームの活動の趣旨と異なる活動について宣伝や勧誘を行わないこと。
- （８）家庭教育支援チームの趣旨に反する活動、公の秩序又は善良の風俗を害する恐れのある取組を行わないこと。
- （９）その他、家庭教育支援チームとして登録すべきでない特段の事情がないこと。また、法令等に違反する又は違反する恐れのある行為を行わないことはもとより、文部科学省の信用を傷つける行為と判断される行為を行わないこと。


○登録の手続き等

登録を希望するチームは、登録要件を満たしていることを確認し、活動を行う市区町村の家庭教育支援担当に相談のうえ、申し込み。登録期間は、登録日から翌々年度の3月31日まで。（更新可能）



【家庭教育支援チームのロゴマーク】
コンセプト「温かく包む支援の輪」
地域の人々の支援の輪が、子供や保護者の方を温かく包み込むイメージを体現したロゴマークです。

文部科学省ホームページ
「家庭教育支援チーム」
登録制度について





文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN